

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	九州ルーテル学院大学
設置者名	学校法人九州ルーテル学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
人文学部	人文学科 キャリア・イングリッシュ専攻	夜・通信	旧	26	0	30	56	13	
			新	31	0	32	63	13	
	人文学科 こども専攻	夜・通信	旧	26	0	68	94	13	
	人文学科 保育・幼児教育専攻	夜・通信	新	31	0	30	61	13	
	人文学科 児童教育専攻	夜・通信	新	31	0	51	82	13	
	心理臨床学科	夜・通信	旧	26	0	106	132	13	
			新	31	0	88	119	13	
	<p>(備考) ※2024年度シラバスに基づいて記載 2023年度より「人文学科こども専攻」を改組し「人文学科保育・幼児教育専攻」と「人文学科児童教育専攻」へ変更 ■2022年度入学生まで(旧:カリキュラム) 人文学科(キャリア・イングリッシュ専攻、こども専攻〔保育コース、児童教育コース〕) 心理臨床学科 ■2023年度入学生以降(新:カリキュラム) 人文学科(キャリア・イングリッシュ専攻、保育・幼児教育専攻、児童教育専攻) 心理臨床学科</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページに記載 https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/kamokuichiran2024.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)
該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	九州ルーテル学院大学
設置者名	学校法人九州ルーテル学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Trustees2024.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	社会福祉法人慈愛園 老人ホーム・ケアハウス施設長	2022年4月1日 ～2024年9月30日	経営・運営の助言及び監査等
非常勤	ルーテル学院大学学長	2020年10月1日 ～2024年9月30日	経営・運営の助言及び監査等
非常勤	日本福音ルーテル教会神水教会 牧師	2020年10月1日 ～2024年9月30日	経営・運営の助言及び監査等
非常勤	日本福音ルーテル教会健軍教会 牧師	2020年10月1日 ～2024年9月30日	経営・運営の助言及び監査等
非常勤	元熊本ライトハウス・のぞみホーム 施設長	2020年10月1日 2024年9月30日	経営・運営の助言及び監査等
非常勤	大学・短期大学同窓会（結会）役員	2022年12月14日 ～2024年9月30日	経営・運営の助言及び監査等
非常勤	ルーテル学院・九州女学院同窓会（のいばら会）会長	2020年10月1日 ～2024年9月30日	経営・運営の助言及び監査等
非常勤	株式会社エイジア・フロンテア 代表取締役社長	2020年10月1日 ～2024年9月30日	経営・運営の助言及び監査等
非常勤	株式会社寺原自動車学校 代表取締役社長	2020年10月1日 ～2024年9月30日	経営・運営の助言及び監査等
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	九州ルーテル学院大学
設置者名	学校法人九州ルーテル学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス作成にあたっては「シラバス作成・授業実践ガイド」に基づき作成することとしており、主に以下の内容を記載することを求めている。 ①授業の実施方法と内容、②到達目標、③事前・事後学修の進め方、④評価方法・基準の明示、⑤アクティブラーニングの実施方法、⑥ナンバリング、⑦ディプロマポリシーとの関連、⑧ICT活用、⑨「実務経験を活かした授業」に関する記述、⑩試験実施及びフィードバックの方法、⑪オープンな教育リソースの活用、⑫テキスト、⑬参考図書、⑭履修の留意事項、⑮授業内容とSDGs(持続可能な開発目標)の関連 ・作成されたシラバスは、「シラバス・セルフ・チェックシート」を用い、授業担当者自らが点検を行った後、大学内のシラバスチェック担当者(教務委員長・各学科長、各専攻主任)による第三者チェックを実施し、「シラバスチェック実施管理表」の確認を経て、完成としている。 ・シラバスの公開は「学生向けポータルサイト」「大学ホームページの情報公開」により3月末に公開している。 	
授業計画書の公表方法	<p>学内向けポータルサイト https://portalsystem.klc.ac.jp/ 大学ホームページ https://portalsystem.klc.ac.jp/aa_web/syllabus/se0010.aspx?me=EU&opi=mt0010</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則第17条(成績評定)及び成績評定規程において、授業時間数の3分の1以上を欠席した場合、評定の対象から除外することを定めており、学修意欲が見込めない場合には単位を認めないことを明記している。 ・各授業のシラバスにおいて、「関心・意欲・態度」の項目を設定し、授業への積極的な参加を測定し評定とすることを記載しており、学習意欲の向上を図る取組を行っている。 ・学修成果の評価方法等については、「シラバス作成・授業実践ガイド」において①評価方法、②評価の割合、③評価の観点を明示するよう求めている。 ・成績の取扱いに関して、教員と学生の相互理解を推進することを目的として、学生からの成績に関する意義申し立てを行う機会を設けている。 ・卒業論文については4年次必修科目「卒業研究」を設けており、評価にあたっては、「ルーブリック評価」を行っている。また、3年次必修科目として後期に「特別研究」を設定している。「特別研究」は3年前期終了時に80単位取得できていることを条件としており、「九州ルーテル学院大学における教育の質保証に関する規程」において規定している。 <p>2023年度入学生より、全学部においてGPAを活用した進級判定も導入しており、同様に「九州ルーテル学院大学における教育の質保証に関する規程」において規定している。</p>	

【GPA 制度に関する規程：第 3 条 本学で定める成績評価、GP 及び評価】

段階	標語	点数	GP	評価	評価の説明
1	A+	95-100	4.00	秀	到達目標を十分に達成し、極めて 優秀な成果を収めている
2	A-	90-94	3.85		
3	B+	87-89	3.70	優	到達目標を十分に達成している
4	B	83-86	3.30		
5	B-	80-82	3.00		
6	C+	77-79	2.70	良	到達目標を達成している
7	C	73-76	2.30		
8	C-	70-72	2.00		
9	D+	67-69	1.70	可	到達目標を最低限度達成している
10	D	63-66	1.30		
11	D-	60-62	1.00		
12	N	0-59	0.00	不可	到達目標を達成できなかったため さらに学習が必要である
合格	Q	—	—	合格	点数で評価できない科目は、合格か不合格で評価する
不合格	NC	—	—	不合格	
未受験 及び失格	S	—	0.00	失格	評価の要件を満たしていない

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・成績評価の方法は「成績評定規程」に基づき、秀・優・良・可・不可の5段階で評価するとともに、「九州ルーテル学院大学 GPA 制度に関する規程」「九州ルーテル学院大学における教育の質保証に関する規程」を設け、各学年の年度末の成績について、取得単位数及びGPAによる評価を行い、修学の指導・支援の対象とすることを定めている。

・GPAは、各授業科目5段階の成績評価に対応して、4~0のグレードポイントを付与して算出する1単位当たりのポイント値を用いている。

(※GPA制度に関する規程第3条参照)

・GPAは各学期終了後、学生に配布する成績通知書にて通知している。

また、各学科、カリキュラム毎にGPAの分布の分析を行い、学内の学生支援懇談会において教職員に情報を共有し、学生指導に活用している。なお、GPAによる成績評価については、2021年度入学生より12段階のGPA評価を用いよりきめ細やかな指導が行えるよう改善し運用している。同資料は、本学ホームページにて「GPA分布」を公開している。

<計算式>

$$GPA = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{成績評価グレードポイント})] \text{の総和}}{\text{登録科目の総単位数 (不合格科目の単位を含む。)}}$$

※成績評価が点数によらない以下の科目及び未入力又は保留の授業科目については、GPAの対象から除く。(GPA制度に関する規程 第5条第3項)

- (1) 合格か不合格かのみを判定する授業科目
- (2) 編入学又は転入学した際の単位認定科目
- (3) 本学入学前に修得した単位認定科目

客観的な指標の算出方法の公表方法	<p>大学ホームページ(https://www.klc.ac.jp/)</p> <p>① 成績評定規程 https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/seisekihyotei2023.pdf</p> <p>② 九州ルーテル学院大学 GPA 制度に関する規程 https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/info/regulation/10-2_gpa.pdf</p> <p>③ 九州ルーテル学院大学における教育の質保証に関する規程 https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/info/regulation/11-3_kyoikunositsu-hosho2024.pdf</p> <p>④ GPA 分布 https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/gapbunpu2024.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を学部全体及び学科毎に定め、大学ホームページ、学校案内等において公表している。 ・学則に規定する卒業要件の審査は、履修規程及び学位規程に則り、卒業判定会議において一人ひとりの卒業を認定している。 ・2018 年度より、卒業生に対してアンケート調査を実施しており、卒業する学生への教育効果の測定及び学生支援の満足度を把握し、本学の教育・学生支援を点検し、改善を図る取組を行っている。 	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<p>大学ホームページ(https://www.klc.ac.jp/)</p> <p>①デュプロマ・ポリシー https://www.klc.ac.jp/about-us/disclosure/college-school/</p> <p>②学位規程 https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/gakui.pdf</p> <p>③履修規程 https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/hitsuyoutanni2023.pdf</p> <p>④卒業生アンケート https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/sotsugyosei2023.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	九州ルーテル学院大学
設置者名	学校法人九州ルーテル学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Statement_of_Accounts_2023.pdf
収支計算書 又は損益計算書	(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Statement_of_Accounts_2023.pdf
財産目録	(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Property_2023.pdf
事業報告書	(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Annual_Report_2023.pdf
監事による 監査報告 (書)	(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Internal_Auditors_2023.pdf

2. 事業計画 (任意記載事項)

単年度計画 (名称: 事業計画書	対象年度: 2024 (令和6) 年度)
(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Annual_Plan_2024.pdf	
中長期計画 (名称: 九州ルーテル学院 中期計画	対象年度: 第I期 2020~2024年度、第II期 2025~2029年度)
(学院ホームページに記載) https://kluther-gakuin.jp/disclosure/pdf/Medium-term%20plan.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

(大学ホームページに記載) https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/Self_Assessment_College_2023.pdf
--

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

(大学ホームページに記載) https://www.klc.ac.jp/about-us/info/juaa/
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文学部
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページ) https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/info/regulation/1-2_gakusoku-college2024.pdf
(概要) 九州ルーテル学院大学学則第 1 条 (目的及び使命) 九州ルーテル学院大学 (以下「本学」という。) は、キリスト教の精神を基盤にして、教育基本法及び学校教育法の定めにより、「感恩奉仕」の学風のもとに、深く専門の学芸を教育研究し、職業及び社会生活に必要な教育を施し、あわせて情操豊かで国際性に富む全人的な人間性を涵養し、もって広く福祉と社会・文化の向上に資する人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ https://www.klc.ac.jp/) https://www.klc.ac.jp/about-us/disclosure/college-school/
(概要) 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) 卒業に必要な所定の単位を取得し、下記の資質・能力を修得した学生に学位を授与します。 (1) 学部 1. グローバルな視野を持って国内外の社会の動向に関心を持ち、多様性を尊重しながら、それぞれの専門領域で求められる知識・技能を身につけることができる。 2. 修得した知識や技能をそれぞれの専門の領域における課題を解決するために生かすことができる。 3. 「感恩奉仕」の精神に基づき、他者を尊重し、他者のために自分が修得した能力を感謝の気持ちと共に主体的に還元できる。 1) 共通教育 1. グローバルな視野を持ち、多様な価値観を受け入れることができる力 2. 社会のさまざまな分野で活動できる知識やスキルを身につける力 3. 地域や社会の変化とニーズに対応できる力 (2) 人文学科 1) キャリア・イングリッシュ専攻 1. 国際社会や実務で通用する英語の 4 技能・5 領域を修得し、実践的で高度な英語コミュニケーション能力を身に付ける。「知識・技能」 ①英語の4技能・5領域の修得 ②実践的で高度な英語コミュニケーション能力を身に付ける 2. 英語圏の社会・歴史・文化・言語・文学の各領域への理解を深め、国際的で学際的な視野を持つことができる。「思考力・判断力・表現力」 ①英語圏の社会・歴史・文化・言語・文学への深い理解を身に付ける ②国際的で学際的な視野が持てる 3. 社会の課題を自己に関わる問題として捉え、自国の文化だけでなく異文化も理解・尊重しながら、多様な人々と関わる協働性を身に付ける。「主体性・多様性・協働性」 ①社会の課題を自分事として捉え、自分の行動につなげることができる ②自分と異なる人や文化を尊重でき、多様な人々と関わるができる 4. 社会の出来事や課題に関心を持ち、大学で獲得した知識やスキルを活かしながら、必要な情報を収集・分析し、自ら課題を発見して解決策を提示することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」 ①社会の出来事や課題に関心をもち、それを発信・説明することができる ②獲得した知識やスキルを活用し、課題解決につなげることができる 2) こども専攻 ① 保育コース 1. 保育・幼児教育の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる 2. 保育・幼児教育のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる

3. 保育・幼児教育の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる
4. 他者との協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる
5. 多様な他者を理解し、他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心を持ち、乳幼児理解の視点を活かしてアプローチすることができる
6. 保育・幼児教育に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる

② 児童教育コース

1. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学の考え方や理論について、自分の言葉で説明できる
2. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学のさまざまな研究法や技法について、実践を通して理解できる
3. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学の専門的知識を身につけ、現場等で活用できる
4. 小学校等での実習や様々なボランティア活動における協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し問題解決を行うことができる
5. 多様な他者を理解し、他者と共生する社会の形成に向けて、社会の動向に関心を持ち、教育者としての視点を活かしてアプローチすることができる
6. 教育学やこども学、教科内容や教科教育学に関する卒業研究を通して、自らテーマを設定し、適切な方法で研究を進め、分析し、結果を整理して考察をまとめることができる

3) 保育・幼児教育専攻

1. 保育・幼児教育の考え方や理論を理解し、保育・幼児教育の現場で必要な専門的知識を身に付け、現場等で活用することができる。「知識・技能」
2. 保育・幼児教育の様々な研究法や技法について、実践を通して理解できる。「知識・技能」
3. 他者との協働的・実践的な学びを通して、対応力・判断力を高め、適切に活用し、課題解決を行うことができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」
4. 多様な他者を理解、尊重し、他者と共生する社会の形成に向けて、国内外の社会動向に関心を持ち、乳幼児理解の視点を生かしてアプローチすることができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

4) 児童教育専攻

1. 教育の基本、学校教育や学習指導のあり方を理解し、児童等の多様な教育的ニーズに応じた適切な配慮や指導を行うための知識等を身につけ、一人一人の児童等のよさや可能性を伸ばすことができる。「知識・技能」
2. 指導に関する基本的な技能を身に付けると共に、児童等の実態を多面的に把握するために、様々な情報を効果的に活用するスキルを生かしながら、適切に児童等を指導することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」
3. 教育者としての使命・責任を理解し、児童等の将来や社会のために、チーム学校の構成員として他者と協働し、課題の解決に取り組むことができる。「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」
4. 多くの実習やボランティア活動等を通して得られた経験を統合し、地域や児童等の多様な実態に相応しい指導計画を創造し、持続可能な社会の担い手を育成することができる。「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

(3) 心理臨床学科

1. 人間理解・共感・回復力：人を「生物-心理-社会」モデルの視点で理解し、その人がもつ個性と多様性を尊重することができる。自己理解を深めながら、自己とは異なる他者の苦悩や立場をありのままに理解することができる。そして、他者との関わりを通じて自己の心や感情を受けとめ、しなやかな心を取り戻し、自己に活力を与えることができる。「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」
2. 分析・発信力：個人と社会の視点から、多様な手法を通して現象を調査・分析・考察し、発見された課題とその解決方法を適切に発信することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」
3. 対応・判断力：他者との交流による学びや社会・世界動向を通して、現象を熟考・整理して課題を評価し、多様なアプローチを検討することができる。

「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

4. 倫理観：自己及び他者の基本的人権を尊重し、他者の利益と幸福に貢献することができる。「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：大学ホームページ <https://www.klc.ac.jp/>)

<https://www.klc.ac.jp/about-us/disclosure/college-school/>

(概要)

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程の編成方針

(1) 共通教育

1. 初年次教育領域

- ①自ら課題を発見して思考・判断することができる
- ②適切な表現方法を身につけている
- ③他者と共有・解決のための行動・発言をすることができる

2. キリスト教領域

- ①人を尊重し、いのちを育んだり慈しんだりする態度を身につけている
- ②キリスト教精神に基づいて真に平和な世界を創り出そうとする態度を身につけている

3. 教養コア領域

- ①地元地域や多様な文化・社会を理解して貢献しようとする態度を身につけている

4. 一般教養領域

- ①社会を生き抜くために必要な教養を身につけている（人文科学）
- ②社会を生き抜くために必要な教養を身につけている（社会科学）
- ③社会を生き抜くために必要な教養を身につけている（自然・情報科学）

5. 健康・スポーツ領域

- ①身体的な健康・安全に関する教養を身につけている

6. 外国語領域

- ①外国語でコミュニケーションをとることができる

7. 体験学修領域

- ①社会や異文化で生活・活動するために必要な知識と技能を身につけている

8. キャリア教育領域

- ①社会的・職業的自立を図るために必要な教養と態度を身につけている

(2) 人文学科

1) キャリア・イングリッシュ専攻

1. グローバルにも活かせる英語力とビジネスリテラシー

高度な英語運用能力とグローバルな視野を持った学生を育成するために、少人数の習熟度別英語クラスを編成し、1、2年次では英語の4技能・5領域をバランスよく伸ばすために週2～3回の集中的な授業を行います。また、同時に英米社会を幅広く学ぶ科目やビジネスに関する理解と基礎知識に加え、我々の周りに溢れる様々なデータを適切に分析し可視化するスキルを学ぶためのデータサイエンス関連科目も開設します。3年次からは、少人数ゼミと並行し、専攻内の2つのコースと関連する、より専門的で高度な科目群を開設し、学生の専門的知識やスキルを育みます。

■代表的な科目：「Advanced Communication English I～IV」「Communication English I～IV」「リーディング&ライティング演習 I～IV」「グローバルビジネスI～IV」「エアライン・ツーリズム講座」「データサイエンス応用」等

2. 知識の実践と体験学修

国内や海外の様々な出来事や動向に関心を持ったグローバル人材になるためには、修得した実践的な英語運用能力、異文化や社会についての知識、国内外のビジネスについての知識を実際の場面で実践することが必要です。さらに高度な英語コミュニケーション科目やビジネス系の科目、データサイエンス関連科目などで英語やビジネス、データサイエンススキルを磨き、企業等でのインターンシップ、小学校英語活動、教育実習、教育現場体験等の様々な体験学修を通じて知識と実践力の融合を図ります。

■代表的な科目：「スピーチ&ディベート I & II」「ビジネス・イングリッシュ I &

II]「国際ビジネス論」「企業経営論」「プロジェクトデザインⅠ&Ⅱ」「データ解析演習」「プログラミング応用」「小学校英語フィールドワーク」等

3. 多様性の理解と表現する力

グローバル化が進む現代では、異なった価値観や海外の文化に対して関心と理解を持ち、自己の意見を積極的に発言・発信できる力が必要となります。また3、4年次では、それまでに身につけた専門知識やスキルを活かして、議論したり表現したりする双方向のコミュニケーションを高めるための授業や、学生自らが発見したテーマや課題について研究し、成果をプレゼンテーションできるようなゼミを行います。

■代表的な科目：「異文化理解Ⅰ&Ⅱ」「Global Issues in English」「Cultural Comparisons」「Advanced English Project」「特別研究」「卒業研究」等

2) こども専攻

① 保育コース

教育に携わる者としての使命感を持ち、豊かな人間性と高い専門的知識・技能を身につけ、感恩奉仕の精神を拠り所にし、保育者として、心身共に健全な人材を育成するためのカリキュラムを編成します。

1. 保育の専門性と人間性

保育に携わる者の倫理観・専門職としてのモラル・人間性を培うために、1年次より人格形成のための講義を計画的に取り入れ、保育者としての力量を高めます。また、1～4年次生の教科を関連させ、学びの系統性を踏まえ、総合的な学修力を身に付けます。

2. 保育における理論と実践の融合

大学で学んだ理論を実践に結びつける教科統合型の総合的な力を育成することにより、実習の質と内容の充実を図りながら、理論と実際を結び付ける実践力の育成を目指します。

3. 幼児理解と技能教科の充実・強化

音楽、環境構成の制作等、幼児教育に必要なピアノ・造形等の基本的な基礎技能の向上を深めます。

② 児童教育コース

児童教育に携わる者としての使命感を持ち、豊かな人間性と高い専門知識・技能を身につけ、グローバルな視野を持って現代の教育課題に柔軟に対応できる人材を育成するためのカリキュラムを編成します。

1. 豊かな教養に根ざした専門的知識・技能の修得

共通教育科目等で豊かな教養を培いながら、同時に、小学校音楽演習、理科演習、図画工作演習等の独自科目を開設し、専門的知識・技能を育みます。

2. 教育における理論と実践の融合

教科教育法、特別研究、卒業研究等を通じて、教材研究や教育実践研究の方法を身に付けられるようにし、学び続ける教育者として求められる資質・能力を育てます。また、教育課題への理解を深め、共生社会の実現という理念に基づいて主体的にその課題に取り組もうとする態度を養います。

3. 体験学修の充実

児童教育フィールドワーク等で行われる小学校等での実習や、様々なボランティア活動を通じて、教育者としての体験的・実践的活動能力の深化・発展を図ります。

3) 保育・幼児教育専攻

1. 保育・幼児教育の専門性と人間性

保育・幼児教育に携わる者の倫理観、専門職としてのモラル・人間性を培うために、1年次より人格形成のための講義を計画的に取り入れ、保育者としての力量を高めます。また、1～4年次生の教科を関連させ、学びの系統性を踏まえ、総合的な学修力を身に付けます。

■代表的な科目：1年次「キリスト教Ⅰ・Ⅱ」「哲学」「教育原論」

2年次「保育原理」「キリスト教と倫理」3年次「キリスト教保育」「キリスト教と文学」

2. 保育・幼児教育における理論と実践の融合

大学で学んだ理論を実践に結びつける教科統合型の総合的な力を育成することにより、実習の質と内容の充実を図りながら、理論と実際を結び付ける実践力の育成を目指します。2年次以降に始まる保育実習、幼稚園教育実習前に関連科目を配置し、これまでの学びを基に、実際についての理解を深めるとともに、指導案作成、模擬保育

等を通して実践的な力を身に付けます。

- 代表的な科目：1年次「保育内容(総論)」「こどもと言葉」「こどもと表現Ⅰ・Ⅱ」
2年次「保育実習指導Ⅰ」「ルーテル系幼稚園等現場体験学修」「保育実習Ⅰ」
3年次「保育実習指導Ⅱ」「幼稚園教育実習指導Ⅰ」「保育実習Ⅱ」「幼稚園教育実習Ⅱ」
4年次「子育て支援フィールドワーク」「異文化体験学修」等

3. 乳幼児理解と技能教科の充実・強化

乳幼児理解と保育・幼児教育に必要な表現(音楽・造形・身体・環境構成等)の基本的な知識と技能の向上を深めます。

- 代表的な科目：1年次「器楽Ⅰ・Ⅱ」「保育内容(表現Ⅰ・Ⅱ)」
2年次「音楽表現Ⅰ」「保育内容の理解と方法Ⅰ・Ⅱ」「保育内容(健康)」
3年次「音楽表現Ⅱ」「保育内容の理解と方法Ⅲ」を設置し、様々な表現方法を学び、実践します。
4年次「音楽表現Ⅲ」

4. 研究的視点の醸成

3年次後期から、それまでに身につけた専門知識をもとにして、学生自らがテーマを設定して取り組むゼミ形式の研究活動で課題に取り組みます。3年次後期に「特別研究」、4年次に「卒業研究」を配置し、それらを通して課題を探求し、考察します。

4) 児童教育専攻

1. 2つの教員免許状カリキュラムの配置と取得

小学校教諭一種免許状を取得できるカリキュラムの配置を基盤として、これを基礎免許状とした特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の教諭を目指す特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)を取得できるカリキュラムを配置します。

2. 4年間を貫く教師力向上のための体験及び実習

初年次から4年間を通して地域の多様な教育現場を知り、学校教育の実際から指導・支援についての理解を深め、実践力を身に付けるために、地域の学校の協力のもと、さまざまな現場体験や実習(「小学校教育実習」「特別支援学校教育実習」等)を行う機会を各学年において配置し、小学校及び特別支援学校の教師としての総合的な資質向上を目指します。

3. 確かな児童理解に基づいた指導力を育成する授業科目

いじめや不登校等、多様化する教育課題に対応できる実践的指導力を育成するため、児童理解に基づく児童等への指導、キャリア教育及び教育相談等の理論及び実践に関する科目を配置します。

4. 小学校教師としての指導力を高めるための授業科目の配置の工夫

各教科について小学校教諭一種免許状に位置づけられた科目を教育実習の授業実践につながるよう初年次から3年次までの教育実習前に関連科目を配置し、教科内容の理解を深めると共に、指導案の作成、模擬授業等により、ICT等を活用した実践的な指導力を高められるようにします。

5. 多様なニーズの場での特別支援教育が実践できるための科目内容の工夫

特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者・肢体不自由者・病弱者)の科目においては、特別支援学校や特別支援学級における教育だけでなく、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童等に対する教育が実践できる内容を取り入れます。

6. 児童教育及び特別支援教育に関する課題の探究と考察

3年次後期から、学生の希望により担当者を決め、テーマを設定して取り組むゼミ形式の研究活動「特別研究」(3年次後期)及び「卒業研究」(4年次通年)を配置し、児童教育及び特別支援教育に関する課題を探究し考察します。

(3) 心理臨床学科

1. 共通教育では、基本的に人・社会・自然科学分野の科目を幅広く学びます。さらに、心理学やソーシャルワークの専門的理解の土台を築くことを目指すため、心の理解、障害の理解、社会福祉に関係する制度や法律などに関わる科目、対人援助専門職に相応しい姿勢・態度を培う科目を用意しています。例えば、「人間と障害」「ソーシャルワーク論」「法学」「人権論」などです。

2. 専門教育では心理学とソーシャルワークの基本的な考え方を身につけてもらうため、全員に1・2年次の心理学と精神保健福祉学の導入科目を必修としています。必

修科目「心理臨床学の基礎」では、教員の研究・実践活動、公認心理師・精神保健福祉士として働いている卒業生、その他一般企業に就職している卒業生の講話を聴く機会を設け、コースや進路の選択を後押ししています。また、学生が心の健康を保持していけるように、学生全員が「認知行動療法」という科目でストレス対処の技法を学びます。専門分野への理解を深めながら自分の興味関心にあったコースを2年次後期に選択する制度をとっています。(レイト・スペシャライゼーション)。

3. 心理学コースの専門教育は、公認心理師の資格取得に必要な科目を履修・取得することを目標としています。医療・福祉・教育・司法・産業領域における心理学の各論の他「心理的アセスメント」や「心理学的支援法」などで心の健康や支援のあり方を学修します。これらを基本として「心理演習」で心理的支援が必要な方を支援につなぐ方法や他職種との連携のあり方や技術等を学び、「心理実習」を通して多様な場面で活かせる実践力を養います。

4. 人間科学コースでは、自分の興味・関心・ニーズにあわせて、人間の総理解につながる学びを自由にカスタマイズできます。一般企業への就職や心理・福祉の研究者を目指す学生のために、人間の心理や社会動向を定量的に計測する心理社会調査やデータ解析関連科目(例えば、「心理学研究法」や「心理学統計法」等)を系統的に配置し、その過程で社会調査士や認定心理士(心理調査)資格も取得できます。そして「人間科学研究実習」では、人間とその心に関する調査を企画して定量的・定性的に分析した成果を内外に報告するまでを体験して人間の持つ可能性と多様性への理解を深めます。

5. 精神保健福祉コースは、精神保健福祉士資格取得に必要な科目を履修・修得することを目標としています。資格取得に必要な科目(例えば、「精神保健福祉の原理」や「ソーシャルワーク実習」等)を通して、ソーシャルワークの視点で現代の精神保健福祉の課題とその解決方向について学び、ひとりひとりの心の健康を社会との関係として解釈し、心の健康を取り戻していくための知識と実践力を身につけることができます。また、精神保健福祉士受験資格だけでなく、それを前提としたスクールソーシャルワーカーになるための科目(例えば、「学校ソーシャルワーク論」や「学校ソーシャルワーク実習」等)も用意し、医療・福祉・教育・司法・産業領域、および地域で幅広く活躍できる精神保健福祉士の養成を目指しています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法: 大学ホームページ <https://www.klc.ac.jp/>、募集要項)
<https://www.klc.ac.jp/about-us/disclosure/college-school/>

(概要)

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

学位授与の方針や教育課程編成・実施の方針を理解し、以下のような意欲・態度・資質を備えた人を学生として受け入れます。

(1) 人文学科

1) キャリア・イングリッシュ専攻

1. 英語に興味があり、英語力を伸ばしたい人、英語力やデータサイエンスの知識を活かした職種に就きたい人
2. ビジネス分野や持続可能な社会づくりに関心がある人
3. 異文化やグローバルな課題に関心があり、多様な環境で活躍したい人
4. 学ぶ意欲があり、異なる人々と関わりながら、社会で活躍するためのライフスキルを身につけたい人
5. 英語教育(中・高教諭やこども英語教育)に関心がある人

2) こども専攻

① 保育コース

- (1) 発達支援の能力を持った保育士・幼稚園教諭・保育教諭を目指す人
- (2) 保育士として児童福祉施設や病院などで働きたい人
- (3) こどもの世界と保育に関心を持ちその成長を支援したい人
- (4) 入学までに望まれる能力・態度・活動
 - 高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的生活習慣
 - 聴く、話す、読む、書く力、他者との良好な関係を構築するためのコミュニケーション能力
 - 音楽(読譜等)についての基礎知識と、ピアノや歌などの技能 ➢ 地域のボラン

ティア活動への参加

② 児童教育コース

- (1) さまざまな体験を通して自分自身を磨き、小学校教諭として活躍したい人
- (2) こどもの世界と小学校教育に関心を持ちその成長を支援したい人
- (3) 入学までに望まれる能力・態度・活動
 - 高等学校までに共通して学ぶ教科・科目についてのバランスのとれた幅広い基礎学力と基本的生活習慣
 - 聴く、話す、読む、書く力、他者との良好な関係を構築するためのコミュニケーション能力
 - 広く社会に関心を持ち、主体的に考えようとする態度
 - 地域活動や児童の発達などに関連する体験活動への参加

3) 保育・幼児教育専攻

1. 子どもと子育て家庭への支援力を持った保育者を目指す人
2. 保育・幼児教育に興味・関心をもって深く学び、専門的知識・技能を身につけ、将来保育者として活躍したい思いを持つ人
3. 子どもを取り巻く世界や文化、保育・幼児教育に関心を持ちその成長を支援したい人

4) 児童教育専攻

1. 優れた洞察力と豊かな個性・行動力を持った人
2. 教師を目指す上で十分な基礎学力を身につけている人
3. 知識や技能を活用して課題を探究し、その解決に向けて考察できる人
4. 児童等の成長を喜び、将来、教師として児童等の教育に関わりたいという強い意志を持っている人
5. 豊かなコミュニケーション能力を持ち、多様な人々と協働して様々な問題に積極的に取り組める人
6. 教育に対する熱意と使命感を持っている人

(2) 心理臨床学科

1. 人の心と行動、人と社会との関係について関心を持っている人
2. ひとりひとりがかけがえのない存在であるという考えに基づき、人間の尊厳に対して強い関心を持つ人
3. 心の問題・精神保健福祉・スクールソーシャルワーク・社会問題に関心を持っている人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページ <https://www.klc.ac.jp/> 情報公開
<https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/organization-chart2024.pdf>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
人文学部	—	15人	12人	5人	2人	人	34人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		79人					79人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		(大学ホームページに記載) https://www.klc.ac.jp/about-us/teachers/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD・SD委員会主催による「授業参観ウィーク」（年1回、1週間の授業公開期間を設けて行う教員相互の授業参観）、FD研修会（入試振り返り、情報リテラシー研修会、障がいのある学生の修学支援に関する講演会）のほか、学生による「授業評価アンケート」結果に基づく授業改善計画の策定と公開、教育・研究面で優れた成果を挙げた教員を表彰する「教育実践奨励賞」、「研究活動奨励賞」といった教育改革や研究への取り組みを助成する制度等により、教育内容・方法の改善を図り、教員の意欲の向上を図っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	150人	171人	114%	600人	684人	114%	若干名人	2人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	150人	171人	114%	600人	684人	114%	若干名人	2人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	155人 (100%)	6人 (3.9 %)	132人 (85.2 %)	17人 (11.0 %)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	155人 (100%)	6人 (3.9 %)	132人 (85.2 %)	17人 (11.0 %)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考) 2024年3月卒業生の状況				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	158人 (100%)	147人 (93.0%)	6人 (3.8%)	4人 (2.5%)	1人 (0.6%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	158人 (100%)	147人 (93.0%)	6人 (3.8%)	4人 (2.5%)	1人 (0.6%)
(備考) 2024年3月卒業生の状況 ※その他は除籍					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"> 年間の授業科目は、前年度中に授業計画案を策定し、シラバスの作成を行う。 シラバス作成にあたっては「シラバス作成・授業実践ガイド」に基づき作成することとしており、主に以下の内容を記載することを求めている。 ①授業の実施方法と内容、②到達目標、③事前・事後学修の進め方、④評価方法・基準の明示、⑤アクティブラーニングの実施方法、⑥ナンバリング、⑦ディプロマポリシーとの関連、⑧ICT活用、⑨「実務経験を活かした授業」に関する記述、⑩試験実施及びフィードバックの方法、⑪オープンな教育リソースの活用、⑫テキスト、⑬参考図書、⑭履修の留意事項に関する記述、⑮授業内容とSDGs（持続可能な開発目標）の関連 作成されたシラバスは、「シラバス・セルフ・チェックシート」を用い、授業担当者自らが点検を行った後、大学内のシラバスチェック担当者による第三者によるチェックを実施し「シラバスチェック実施管理表」の確認を経て、完成としている。 シラバスの公開は「学生向けポータルサイト」「大学ホームページの情報公開」により3月末に公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<ul style="list-style-type: none"> 学修の成果に係る評価は、「成績評定規程」に基づき、秀（90点以上）、優（80点以上－90点未満）、良（70点以上－80点未満）、可（60点以上－70点未満）、不可（60点未満）に分類し、評価を行う。 卒業にあたっては、卒業判定会議において履修規程及び学位規程に則り、一人ひとり卒業要件を点検している。 				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	人文学科	124単位	有・無	49単位
	心理臨床学科	124単位	有・無	49単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：大学ホームページ（教育の質保証に関する規程） https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/info/regulation/11-3_kyoikunositsu-hosho2024.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページ（学生調査報告）		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

(大学ホームページに記載) https://www.klc.ac.jp/wp-content/themes/klc/document/about-us/disclosure/college-school/gakuin-shisetsu2024.pdf
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
人文	人文学科	680,000円	200,000円	246,000円	施設充実費、教育充実費
	心理臨床 学科	680,000円	200,000円	246,000円	施設充実費、教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要) 年2回、前期・後期の開始時期に全教職員で全学生の情報共有を行う『学生支援懇談会』を開催している。この会は基礎疾患を持っている学生、気になる学生、欠席が目立つ学生などの情報を共有し、問題がある学生の早期発見、早期支援を行う仕組みである。また、障がい学生支援については、『障がい学生サポートルーム』及び『障がい学生サポート委員会』を中心に支援内容を常に確認し、教授会等でも情報を共有し支援が必要な学生について合理的配慮を行っている。本学心理臨床学科教員の協力のもと、サポートボランティア学生を募りパソコンテイク、ノートテイク等の支援方法を学び、支援ができる学生を養成している。現在では40名程の学生が支援学生として登録し、聴覚障がい学生や肢体不自由学生、その他障害のある学生への授業支援、移動支援等を行っている。さらに、各学科・学年ごとにクラスがあり、アドバイザーとして教員を配置しており、同じ教員が4年間アドバイザーとして学生ひとり一人に履修登録から学生生活、進路指導など細やかな指導も行う体制整備をしている。このほか、本学独自の奨学金として、成績・品行・学生生活が特に優秀であり、かつ他の学生の模範となり経済的にも援助を必要とする者を対象に「九州ルーテル学院大学奨学金」制度を設けており、本学で修業する学生を奨励し、学生生活を支援している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要) 4月のオリエンテーションにおいて、2,3年次に進路希望調査を行い、その後学生支援課にて、学生全員と個別面談を実施している。面談の内容は学生生活全般の悩み、要望や進路についてのヒアリングを中心としている。また3年次後期のスタート時には進路登録カードを提出させ、進路の分類を行っている。学生個々の対応は、学生支援課と教職・保育支援センターで連携の上、アドバイザーやゼミ担当教員の協力を仰ぎ支援に注力している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要) 学生が入学時に提出する学生カードの記載事項及び、4月に全学生が受診する健康診断の結果等を学生支援課に所属する養護担当が把握し、必要と思われる支援や見守りを行っている。メンタル面での不調を訴える学生には、外部カウンセラー(公認心理士)による学内カウンセリングを設け、支援体制を整えている。カウンセリングは予約制で、メール等で申し込み、自由に相談できる環境を整えている。またアドバイザー(クラス担任教員)を置き、全教員が週1回のオフィスアワーを設定しており、学生生活全般においても気軽に教員にも相談しやすい環境の整備を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>(大学ホームページに記載) https://www.klc.ac.jp/about-us/disclosure/college-school/</p>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F143310111344
学校名 (〇〇大学 等)	九州ルーテル学院大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人九州ルーテル学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		91人	84人	95人
内訳	第Ⅰ区分	55人	50人	
	第Ⅱ区分	19人	21人	
	第Ⅲ区分	17人	13人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				95人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	—
訓告	0人
年間計	—
(備考)	
年間計には、適格認定における学業成績の判定の結果、2回連続で「警告」となった場合のうち、2回目の「警告」がGPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属したことにより「停止」となった者を含む。	

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。